

STORY 3

「西南戦争と人々の物語」

Route

「西南戦争に関わる人たちの、 思いに触れる旅」



玉東町



徳成寺・正念寺

官軍の野戦病院、包帯所が置かれ、町医者や地元の人々が治療を手伝った寺院。そこで、官軍、薩軍の区別なく昼夜献身的に治療する人々の姿に感銘を受けた佐野常民が日本赤十字社の前身となる「博愛社」を創立した。

戦いの爪あとが残る西南戦争の跡地で人々の思いを知る

西郷隆盛率いる薩軍による士族の反乱、西南戦争。最大の激戦地は田原坂として知られるが、国指定史跡が一番多く残されているのは玉東町であり、それ以外にも南関町、玉名市、山鹿市など熊本県北の各地に西南戦争の爪跡が残されている。そんな戦いの跡や、それに関わった人たちの思いが残る地を辿る。

玉東町

高月官軍墓地

西南戦争で戦死した官軍の軍人らを埋葬した墓地。県内21箇所のうち最大の規模である。

玉名市

繁根木八幡宮、西郷小兵衛戦死の地碑

繁根木八幡宮には官軍の本営が置かれ、官軍楽隊なども催された。石垣には今なお弾痕が残るとか。

熊本市

田原坂資料館

17日間にわたる死闘の地、田原坂。弾痕の残る家の復元や慰霊塔の他、西南戦争資料が展示されている。

南関町

正勝寺

官軍側の総督、有栖川宮熾仁（ありすがわのみやたるひと）親王の本営が置かれた。

玉東町



吉次峠、半高山

度重なる激戦が繰り広げられた地。吉次峠には、薩軍に参加した熊本隊一番小隊長・佐々友房の詩を伝える石碑もある。半高山と吉次峠は真向いにあり、いずれの地でも多くの命が失われた。

山鹿市

山鹿口の戦い跡

今はその痕跡こそないものの、田原坂の戦闘と平行して、山鹿でも2月26日から3月31日までの24日間、薩・官軍の激しい攻防が繰り広げられた。

菊池市

西覚寺

田原坂や山鹿方面から退却した際、西郷南州翁の依頼により協力し、薩軍が拠点とした。